

「SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業」2018 年度報告

NPO環パちばが法人となり、新しい事業として、地球環境基金の助成を受けて、「SDGs達成のためのESD担い手育成事業」を2018年度に実施しましたので、ご報告いたします。

6月25日に開催しました、この事業のスタートアップとしての「NPO環パちば パートナーズミーティング」については、だより122号でご報告させていただきました。その後の「地域版ESDプログラムづくり」7月、9月と、「SDGsを進めるプラットホームづくり」8月、9月については、123号でご報告しました。いずれもご参照いただければと思います。 <http://kanpachiba.com/>

◆ 地域版ESDプログラムづくり

「地域版ESDプログラムづくり」は、9月よりファシリテーターとして石井雅章氏(神田外語大学)に協力いただき進めてきました。

11月26日に、グループ「地球温暖化・水・資源循環・生物多様性」ごとにプログラムのブラッシュアップの後、プログラムづくりから課題になった「学習者が習得できるESDの視点」について、全員で意見出しをしました。また、プログラムのフォーマットを全員で検討しました。

このフォーマットに各々が内容を入れて、1月21日にはみんなでふりかえり、「ESDの視点を入れたプログラム」を更に検討しました。

◆ ESDモデルプログラムガイドブック

2月8日には「地域リーダーが作ったESDプログラムガイドブック」の素案出しをして、参加者が意見を出し合いました。これをまとめたものが今年度の成果物であるガイドブックになります。

このガイドブックの中の「ESDモデルプログラムづくりの流れとプログラムシートの読み方」で、ファシリテーターの石井 雅章 氏(神田外語大学)が、「ESDプログラムは与えられるものではなく、目の前にいる学習者と持続可能な社会づくりを結びつけるために、自分たちで考え、実践しながら、更新していくものと言えます。」と書いておられます。

来年度実施を予定している千葉県北部のESD地域リーダー育成にもこのガイドブックの活用が期待されます。

◆ SDGsを進めるプラットホームづくり

2月 8日の第3回「SDGsを進めるプラットホームづくり」では、「地域版ESDプログラムづくり」メンバーが活躍することが、SDGsの達成へ向けての一つであるという視点から、プラットホームづくりを検討していただきました。

内容は、ESD人材育成事業の報告、ESD視点を入れたプログラム紹介の上で、ESD人材を活用し広めるために、プラットホームの在り方、必要な要素、今後の方向について、ファシリテーター石井 雅章 氏に進めていただきました。

先送り(つけ)や、世代間の不平等の解決、主権者教育(社会をつくる責任)などのご意見や、今後検討メンバーの中に教育に携わる人に入っていただくこと、自分たちにできること、できないことのご意見もいただきました。また、異なる社会・文化を持つ視点からの気づきを共有する場となれば、というご意見なども、いただきました。

来年度実施を予定している「SDGsを進めるプラットホームづくり」につなげていきます。

2019年度「SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業」も、「地域版 ESD プログラムづくり」と「SDGs を進めるプラットホームづくり」の両輪で進めていきますので、引き続き、多くの皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。